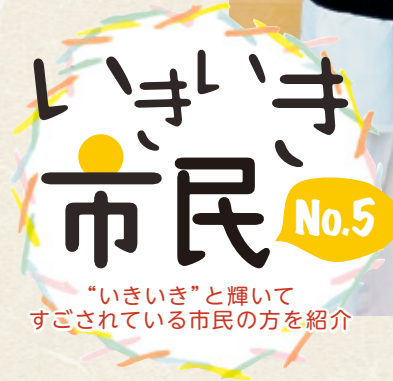


テコンドーで世界へ！

# 山田<sup>ゆう</sup>勇<sup>ま</sup>磨さん 山田<sup>み</sup>美<sup>ゆ</sup>諭さん

今年の9月に韓国<sup>インチョン</sup>の仁川で開催されたアジア競技大会のテコンドーで、瀬戸市出身の山田勇磨さんが銅メダル、山田美諭さんが5位という素晴らしい成績を収められました。

お二人は市内の小中学校で学んだせとっ子の兄妹です。今回はお二人にお話を伺いました。(以下、**勇**:勇磨さん、**美**:美諭さん)



“いきいき”と輝いて  
すごされている市民の方を紹介

## ◆テコンドーとの出会い

Q.テコンドーを始めたきっかけは？

**勇**「もともと3歳から空手を習っていて、その空手のプラスになるようにと、父の勧めで始めました。空手の経験があったので、最初のうちは試合でもすぐに勝てました。だからとても楽しかったんです。」

**美**「私も父の勧めで中学1年生のときに始めました。細身で足が長い方だったので、向いていたんだと思います。テコンドーは防具をつけるので痛みもなく、ポイントが掲示板に表示されるのでゲーム感覚で楽しんでやっていました。」

Q.ご家族の勧めで始められたのですね。最初は楽しかったということですが、テコンドーが嫌になったことはなかったのでしょうか。

**勇**「大学1年の頃は練習ばかりの毎日で、辛いこともありましたがね。」

**美**「高校生のときに選考会で負けてしまい、試合に出られないことがありました。そのときは悔しかったし、もう辞めたい、と思うこともありましたが。」



アジア競技大会 日本代表結団式にて

## ◆日本代表へ

Q.そんな経験をされながらも、今や日本を代表する選手です。初めて国際大会に出場したときのことを教えてください。

**勇**「初めて出場したのは、2011年の世界テコンドー選手権で、大学2年のときでした。自分は普段緊張しないのですが、さすがにこのときはしましたね。」

**美**「私は高校1年のときのアジアジュニア選手権ですね。日本代表として出場するのは全てが新鮮で。銅メダルを獲得できたのですが、国際大会の楽しさを知ることができました。」

Q.お二人は9月のアジア競技大会にも出場され、ともに素晴らしい成績を収められました。改めて大会を振り返っての感想を。

**勇**「男子テコンドーでのメダル獲得は16年ぶりだと聞きました。その16年前にメダルを獲得されたのが、自分の恩師である大東文化大学テコンドー部の金井洋監督と聞いたときは、本当に嬉しかったですね。」

Q.それはきっと金井監督も嬉しかったでしょうね。美諭さんはどうでしたか。

**美**「私は5位という結果でしたが、勝てない相手ではなかったと思いますし、自信もあったのですごく悔しいですね。」

## ◆兄妹で金メダル！

Q.お話を伺うとお二人でとても切磋琢磨している感じが伺えます。兄妹ということで周囲の注目もあるかと思いますが、同じ種目の競技者としてお互いをどう感じていますか。

**勇**「兄妹として、競技者として、ともに世界の舞台でいい成績を出せるようにしていきたいですね。」

**美**「普段、兄とはテコンドーのことはあまり話さないんです。でも、兄と一緒に大会に出場する、というだけですごく安心感があります。」

Q.それでは最後に今後の目標を聞かせてください。

**勇**「2016年のリオデジャネイロ五輪に出場し、金メダルを獲得したいです。」

**美**「私もリオデジャネイロ五輪で金メダルを獲得するのが目標です。そのために日々成長して実力を上げ、今後の国際大会で良い結果を残していきたいですね。」

## プロフィール

山田勇磨さん

1991年4月14日生まれ。  
三菱電機株式会社所属。58キロ級。

山田美諭さん

1993年12月13日生まれ。  
大東文化大学所属。49キロ級。

兄妹ともに全日本テコンドー選手権で4連覇中。  
アジア競技大会を始めとして、国内外の大会で数多くの入賞実績を持つ。